

特集：継続的に部下のモチベーションを上げるには

図書館を活性化できる職員を育てる — 新潟市の図書館の場合 —

三保恵美子，辰口裕美

新潟市の概要

新潟市の人口は約80万人。平成17年に近隣13市町村が新潟市と大合併し、19年に本州日本海側唯一の政令指定都市に移行しました。

総面積は726.45m²、信濃川、阿賀野川という2つの大河が日本海にそそぎ、田園型政令市ともいえるべく地味豊かな穀倉地帯を擁しています。

	区名	中心館	地区館	地区図書室
中央図書館	北区	豊栄	1館	2室
	東区	中央	2館	3室 ※1室オンライン
	中央区		3館	2室 ※1室オンライン
	江南区	亀田	—	4室
	秋葉区	新津	—	3室 ※2室オンライン
	南区	白根	1館	1室
	西区	坂井輪	2館	7室
	西浦区	西川	3館	3室
合計			12館	25室

表1 新潟市の概要

合併を機に中央図書館を核として各区に1か所ずつ中心館を置き、その傘下に小規模なオンライン図書館とオフラインの地区図書室を配置しています。



図書館の配置

このたび、特集「継続的に部下のモチベーションを上げるには」の原稿依頼がありました。自分自身を振り返っても、仕事の上では、山あり、谷ありで、モチベーションを保ち続けるのは難しい。ましてや、職員のモチベーションを上げ続けるとなると、いろいろな雇用形態の大勢の職員を抱える中央図書館でも、地域に根差す蔵書10万冊程度の地区の図書館でもそれぞれいろいろな問題を抱えて、なかなか

か難しいものがあります。

私が初めて図書館に配属されたとき、カウンターで高齢の利用者からのいわれのないクレームにうつむいてじっと耐えている司書の姿がありました。図書館職員には、どんな時でもうつむかず、前を向いて仕事をしてほしいと思った瞬間でした。

また、ある会議の場面で学識経験者の席に座っていた大学の某先生は「僕はネットで調べるから図書館なんていらぬ。図書館は無料の貸本屋だ。」と言い放っておられました。それに対して抗弁の機会が与えられず悔しい思いがいつまでも心に残っています。しかし、残念ながら、市民の中には、図書館は「ただの貸本屋」と思っている人も多いようです。

こんな世の荒波の中で、職員が「ただ自分は本が好きだ」という理由で自らも「貸本屋」の状況に甘んじているとすれば、それは大きな損失です。

まずは、職員には市民の生涯学習を支えるという大きな役割を果たす図書館職員の一員としての自負を持って業務にあたるよう研修することが必要でした。

そこで、ここでは、組織の一員として「図書館を活性化できる職員を育てる」とテーマをしぼって中央図書館と区の中心館の一つである坂井輪図書館での例をご紹介しますことにしました。

中央図書館では

職員のモチベーションを上げる方策の一つには、研修と評価があります。ここでは研修を中心にお話ししたいと思います。